星美

星美学園
小学校
第515号

ことばの持つ力

教務主任　星野　和江

先日の授業参観では、多くの保護者の皆様にご来校いただき、ありがとうございました。今年は、広島平和学習から帰って来てからわずか一週間後の発表で、子ども達の発する一言ひとことの言葉から、平和への思いがよく伝わり素晴らしい発表だったと思います。ご覧いただいた皆様からの鳴りやまぬ拍手がそれを物語っていたと感じました。まさに子ども達の思いがことばに力を与え、ことばの持つ力が見ていた人たちに感動を与えたのだと思います。

日本の子どもは自己肯定感が低いと言われています。内閣府の平成二六年版「子ども・若者白書」によると日本の若者のうち「自分自身に満足している」ものの割合は五割弱、「自分には長所がある」と思っているものの割合は七割弱で、いずれも諸外国と比べて日本が最も低い結果が出ています。この結果は、私たち大人の子どもに対する接し方やことばがけにも関係があるのではないかと思います。

日本には古くから「言霊」ということばがあり、「ことばには霊が宿る」と言われています。日頃、私たちが遣っていることばには力があります。何気ない一言によって、その人を元気づけたり、時には生きる希望を与えたり、反対に一瞬にして、傷つけたりすることができます。今から一三年前、四年生から六年生まで三年間クラスを持ち上がる機会がありました。始業式が終わり、聖堂から教室に帰って来る時、昇降口で三年間担任をすることになる一人の子どもに「また担任が先生でいいの？」と聞きました。すると、その子は、「先生がいいんです。みんなもそう言っています」と力強く答えてくれました。今でもその時の様子は、鮮明に記憶に残っています。私は、「小学校生活の半分の三年間も、子ども達には自分が担任でいいのか」と責任の重さと心配な気持ちを持って始業式を迎えましたが、たったその一言が自信につながり、小学校生活最後の一年間も子ども達と共に過ごす中で、絆が更に深まり思い出に残る一年となりました。

人と接する中で、自分が発することばを考え、できれば人を成長させたり、元気づけたりするプラスのことばがけを多くしたいものだと思います。前向きなことば、謙虚なことば、許すことば、感謝のことば、肯定することばなどのことばを多く遣うことは、他人の生き方も変えると同時に自分の生き方も変わってくることだと信じ、自分の遣うことばに責任を持ちたいと思います。その日々の積み重ねが、目の前にいる子ども達にも自信を持たせ、自己肯定感も高まるものだと信じています。

聖書のことば「愛は、寛容で慈悲に富む。すべてを希望し、すべてを耐え忍ぶ」をいつも心に留め、愛のあふれることばを遣えるように日々、自分の心を高めていきたいと思っています。

聖書

あらゆる時に聖母マリアにより頼みなさい
聖母はいつも助けてくださる

ドン・ボスコ

み心を
たたえる月

「チマッチ神父の生涯」
～日本の地で
聖ドン・ボスコの心を生きた人～

一八八二年、チマッチ師が三歳だった時、ドン・ボスコはファエンツァを訪れている。ドン・ボスコがセルビ教会で多くの人に囲まれて説教していた時、母は幼いヴィンチェンツォを抱きあげながらドン・ボスコを見せて、感涙のあまり「ヴィンチェンツォ、ドン・ボスコを見なさい」とささやきかけた。一人の神父を囲んでいる大群衆とその時の母の言葉は、彼の心に深く刻まれた。

「ドン・ボスコを見なさい」という言葉は、彼の人生の礎となった。事実、師は生涯ドン・ボスコを目前において、絶えず彼を模範としていた。

チマッチ師は、高等学校を卒業した後の一八九五年、サレジオ会に入会するためトリノに赴いた。後に財務総長になった、当時のアシステンテだったフェデーレ・ジラウディ神学生は、冗談交じりに次のように言った。「トリノに行ったら、君はインクの満ちた樽に投げ入れられ、真っ黒になってそこから出てくることになるよ。」

それは、黒い修道服を着ることをほのめかしていた。ドン・ボスコの後継者、福者ミケーレ・ルア神父が彼にスータンを授与し、終生誓願に立ち会い、サレジオ会員として彼を受け入れた。一八九六年十月四日の事である。

ヴィンチェンツォは二歳のとき父を失ってから、生涯にわたって母ローザへの愛情深い尊敬を示していた。母は残された三人の子どもを寛大に主に捧げた。兄ルイジはサレジオ会修道士としてペルーの宣教地に赴いた。姉サンティーナは病院修道女会に入会し、一九四五年フロジノーネにおいて聖人のごとき最期を迎えた。列福調査が進み、福者の位に上げられた。

六年生　広島平和学習

碑めぐりを通して

六年

ぼく達は平和記念公園でその中にあるたくさんの石碑などを見学しました。ぼくが、その碑めぐりをして、心に残った碑は、二つあります。

それは、韓国人原爆犠牲者慰霊碑と原爆供養塔です。ここでは、原爆で亡くなった方、まだ親族が見つかっていない韓国人の方や日本人の骨が埋められています。これらの碑を見て、ぼくは、戦争は何も罪もない人々の命をうばい取るだけでなく、まだ親族にも会えず、ずっと公園で眠っている人がたくさんいることを知りました。そういう人々のために、ぼく達、今生きている人々は、このことから何を学び、何を伝え、どうしていくか、考えていくことが、大切だと思います。

ぼくは、これから、平和学習で学んだことを後世に伝え、平和の使者として、この世から核兵器をなくすことや、平和な世界にするために、今まで以上に努力し続けたいです。

平和の使者

六年

広島平和学習で私達は、老人ホームの慈光園に行きました。老人ホームでは歌を歌ったり肩たたきをしたりお話を聞いたりしました。

私がお話を聞いたおばあさんは今、八十三歳。つまり、今の私達と同い年の十二歳の時、被爆されました。このおばあさんは昔は男の子のように活発で元気で、遊ぶのが大好きな性格だったそうです。でも、一発の原爆により、家族全員を失ったのです。こんなにつらい体験を話してくださるおばあさんには、きっと未来の地球の平和を強く強く願う気持ちがあるのだと思います。

「戦争はだめよ。私は戦争で大切なものを全てなくしたの。一つも良いことはなかった。でも、今は日本が平和で幸せよ。」

と話してくださいました。おばあさんの言う「平和で幸せ」な日本を私達の手でこれからも大切にしていきたいです。

植田さんのお話

六年

私達は六月九日に植田のり子さんの被爆体験談を聞かせていただきました。その中で私は特に「死体を見ても何も感じなかった。人間じゃなかった。」という言葉が心に残りました。「人間じゃなかった。」と聞き戦争は人の理性をなくす物だと知り、とても恐ろしくなりました。

そして、植田さんの「かしこい大人になってね」、「戦争を忘れないでね」という言葉が心に残っています。かしこい大人とはみんなの意見を聞いて、そして自分で判断できるような大人の事だと思います。

戦争をしないという判断。核を持たないという判断。しっかりと自分の頭で考え、選んでいける「かしこい子」に私はなりたいです。戦争の苦しみを忘れません。

７月行事予定

２日（土）　七夕集会
　　父母の会臨時役員会
４日（月）～７日（木）
　　個人面談
６日（水）　信者練成会
１２日（火）　ホームスティ渡航説明会
１４日（木）　５年社会科見学（日野自動車他）
１５日（金）～１６日（土）
　　２年生わくわくスクール
１６日（土）　父の会①
１８日（月）　海の日
１９日（火）　３年生林間学校説明会
２０日（水）　水泳指導終了
２１日（木）　１学期終業式　み言葉の祭儀
２２日（金）・２５日（月）・２６日（火）
　　水泳（１年）
　　補習（２～６年）
２６日（火）　転入テスト

七夕集会

１・２年生による七夕集会があります。
年長児を招待し、七夕のお話を朗読したり一緒に歌を歌ったり、ゲームをしたりと楽しいひと時を過ごします。

個人面談

１学期の個人面談が始まります。
面談時間は１人１５分程度となっております。履き物をご持参の上、ご来校ください。１学期の学習や生活の様子を担任と話し、お子様の成長につながる一時になればと思います。なお、児童は３校時終了後、下校になりますので、ご家庭での過ごし方を親子でお話し合いください。ご理解ご協力のほど、お願いいたします。

給食終了日

最終給食日は１１日（月）です。以降の昼食はお弁当となります。

２年生わくわくスクール

２年生は神奈川県へ１泊２日の宿泊学習を行います。
様々な体験を通して大きく成長することを願っています。

終業式・み言葉の祭儀

長い夏休みが始まります。安全に留意し健康で楽しく充実した夏休みをお過ごしください。

＊＊

熊本地震への募金に感謝　―― 父母の会より

運動会と聖母祭に熊本地震への募金の呼びかけをお願いいたしました結果、１０，０４０円の献金がありました。この献金は、今、まだ災害その他で苦しんでいる方々に役立てていただきます。
皆様の温かいお気持ちに感謝いたします。